

第 2 回 矢作川水系流域委員会

議事要旨

日時：令和 2 年 6 月 23 日（火） 15：00 - 17：00

場所：WEB 開催

1. 開会

2. 挨拶

3. 矢作川水系流域委員会規約

… 資料－ 2

4. 話題提供

(1) 最近の河川事業を取り巻く話題

… 資料－ 3

①令和元年 10 月台風 19 号の被災状況と課題

②水害リスクライン（水位予測情報）の活用について

③既存ダムの洪水調節機能強化

④中部地方水供給リスク管理検討会

②水害リスクライン（水位予測情報）の活用について

- ・水供給のリスク管理に関して、工業地域にある矢作川沿川においては、災害時に起こる廃油、廃液の流出といった水質の問題についても今後検討していくべきである。現時点でどのようなことが議論されているのか。

→（事務局回答）一昨年、佐賀豪雨で起こった水質事故を踏まえ、現在、水供給の遮断について検討している。引き続き検討していく。

③既存ダムの洪水調節機能強化

- ・既存ダムの洪水機能強化として、どの程度の容量を確保する予定なのか。

→（事務局回答）容量自体はダムごとに最大で設定している。その運用については、各ダムの管理者が実施要領を作成中の段階のため、具体的な運用方法については、今後説明させて頂く。

④中部地方水供給リスク管理検討会

- ・洪水時に事前放流した後に、雨が降らずに貯水量が回復しないことで、利水に影響が及ぶ可能性がある。その対策として、気象予測の精度向上や利水関係者へのバック

アップなども、水供給のリスク管理として検討してはどうか。

- ・水質障害として、火山噴火など広域的・長期的なものや洪水氾濫に伴う廃油流出のような事態への対応についても、水供給のリスク管理として検討してはどうか。

5. 議題

(1) 矢作川水系河川整備計画の進捗状況

… 資料－4

<P8>

- ・矢作ダムの放流設備増設による流量低減効果について、流量分配図によると、下流にいくほどピークカット量が少なくなり、岩津地点より下流部では効果がないとなっているが、なぜ下流にいくほど洪水調節効果が小さくなるのか。
- (事務局回答) 《委員説明要》流量ハイドロは、高橋地点、岩津地点へと下流に従い、支川流入がダム地点カット後波形の前の時間に重なっていく傾向にあることと、洪水流量波形は河道貯留効果により、流量波形のカット量が小さくなる傾向にある。

<P7>

- ・本川の流量低減を検討する上で、支川の影響も考慮しているのか。乙川や巴川でバックウォーター現象(本川水位が合流する支川水位に及ぶ影響)が起きて氾濫が起これといった問題が発生しないのか。
- (事務局回答) バックウォーター現象等も考慮した計画となっている。

<P8>

- ・矢作ダムの放流設備増設にあたって、流域の回遊生物が行き来できるような自然に寄り添った設備にする方が良いと思うが、そのような考えはあるのか。
 - ・放流設備とは、洪水時だけでなく、普段から水を流す運用形態なのか。
- (事務局回答) 増設する放流設備は、洪水時のみに使用する放流設備であり、常時(非洪水時)はゲート閉鎖している。回遊生物がダム上下流を行き来できるような付加設備は計画していない。

<全体>

- ・今後の流域委員会でも治水だけでなく、様々な議論を続けていく上で、県管理区間の河道整備状況についても、県と連携して情報提供・共有するのが望ましい。

(2) 矢作ダム再生事業の再評価

… 資料－5

矢作ダム再生事業再評価について、事業継続とする対応方針(原案)が、了承されました。

<P9>

- ・矢作ダム再生事業の進捗率が1%に対して、進捗が順調であるという説明の違和感を補足してほしい。全体像としての事業計画に対して、今回進捗した分が順調であるかどうかを示せないか。

→（事務局回答）平成29年度に新規事業が採択され、平成30年度から令和元年度までにおける執行済み額が約3億円なので、全体事業費約390億円に対して、2年間で1%の進捗率となる。

現在、矢作ダム再生事業は初期の調査に入った段階であり、比較的大きな事業費を占める現場の工事はまだ始まっていない。調査の初期段階ではこのような予算の進捗でも順調と言える状況である。

現時点での残事業B/Cが2.3となっており、残事業における投資効率性がきちんと担保されているという結果になっている。

(3) 今後の予定

… 資料－6

- ・総合土砂管理を含めた土砂に関する課題や対策等は、治水・環境・維持管理に関わる内容であるため、今後、情報提供して頂きたい。

以 上